

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—

うるし むり

漆塗

かく みつお

角光男

(令和3年度作品/29分)

DVD

プロフィール

荒川区西尾久四丁目在住

昭和22年(1947年) 福井県越前市(旧武生市) 生れ

令和2年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定

角さんは昭和38年(1963)、高校1年生の時から、西尾久にあった義兄・加藤敏朗氏の営む工房へ、年末年始の伝いに行った。同41年4月、高校卒業後に上京し、加藤氏に住み込みで師事し、本格的な修業を開始する。15年間修業して技術を修得し、同56年に現在地で独立した。親方の加藤氏は、向島(墨田区)で修業した父の忠夫氏から技術を修得した塗師である。

漆塗は、漆を木地等に塗り重ねて漆器に仕上げる技術。

角さんは修業時代には寿司・蕎麦用の道具を多く手掛けたが、今は椀の漆塗を中心に行う。また、独自の発想で製品化した陶製の漆塗ビアカップも手掛ける。寿司・蕎麦用の道具等の直しも、依頼があれば行う。昭和59年(1984年)には、オランダ・ロッテルダム市からの招聘を受けて漆塗りの実演を行うなど、評価が高い。現在、区内で漆塗の技術を保持している職人は角さんのみである。

企画・著作 荒川区・荒川区教育委員会

制作 株式会社文化工房

用具・工具・材料

<用具・工具>

ヘラ(檜や竹製)、刷毛、小刀、砥石、耐水ペーパー、定盤、ノミ、ボール紙製の筒

<材料>

生漆、きつろし 木地呂漆、まじりうるし 無機顔料(白、赤、黄、青、緑)、テレピン油
木地、ココソ(生漆、でんぷん糊、繊維くず、木くずを混ぜたもの)、サビ(生漆、とこのこ 砥粉、水を混ぜたもの)



〔飯椀〕

工程 - 飯椀の場合 -

(1) 木地調整・ココソ^{かい}搔

木地の割れ目や節などを確認し、塗りの妨げになる部分をノミで削る(木地調整)。生漆等を混ぜてココソを作る。削った箇所を、ヘラを用いてココソで埋めて補修し、表面の凹凸をなくす(ココソ搔)。

(2) 木固め・下地付け

刷毛で生漆を塗る(木固め)。乾かした後、刷毛でサビを塗ってムロ(室)に入れる作業を繰り返し行い、木地の強度を上げる(下地付け)。その際、刷毛で模様を付ける。親方から受け継いだ渦巻き模様(飛鳥塗り)やオリジナルの多様な模様をつけていく。

(3) 中塗り

下地が乾いたら無機顔料で色付けした木地呂漆を塗る。ボール紙製の筒を持ち手として取り付けて順番に内側と外側を塗る。片面を塗るごとに丸1日の乾燥が必要で、この作業を複数回繰り返す。

(4) 中研ぎ

水をつけた耐水ペーパーで研いだ後、1日乾燥させる。複数の色を塗り重ねた漆の層を研ぐことで、下層の色の模様が出てくる。

(5) 上塗り

上塗りには国産の木地呂漆を用いる。テレピン油を加えた漆を濾し、ゴミ、ホコリを取り除く。中塗りと同様にボール紙製の筒を用いて、色付けしていない木地呂漆を塗り、ムロで乾かす。

(6) 完成



「伝統に生きる—あらかわの工芸技術—」は、江戸から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術を保存継承し、広く普及することを目的に、荒川区指定無形文化財保持者の技術を記録した記録映像です。荒川区ホームページならびにYoutube(区公式チャンネル)で配信しているほか、DVDを、荒川区の図書館で貸し出しています。

問い合わせ先

■ 内容等に関すること

荒川区立荒川ふるさと文化館 — 3807-9234

● 荒川区ホームページ内

荒川伝統工芸技術記録映像「伝統に生きる—あらかわの工芸技術—」
<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a016/bunkageijutsu/dento/arakawadentoniikiru.html>



■ DVD貸し出しに関すること

ゆいの森あらかわ — 3891-4349 日暮里図書館 — 3803-1654
町屋図書館 — 3892-9821 汐入図書サービスステーション — 3807-8130
尾久図書館 — 3800-5821 冠新道図書サービスステーション — 3800-3321
南千住図書館 — 3807-9221

● 荒川区立図書館ホームページ

<http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/>

